

友に交わるに分を投じ

とも

まじ

ぶん

とう

※分と同字



※交と同字



友と交わるには心を尽くして仲良くする

互いに切磋琢磨して修行に励むべきである。

切

せつま

磨

し

箴

しんき

規

す。



支



歌

慈しみ、恵み、いたみ、哀れみ、
人の道はこの四つの端（はじめ）より

仁

じん
じ

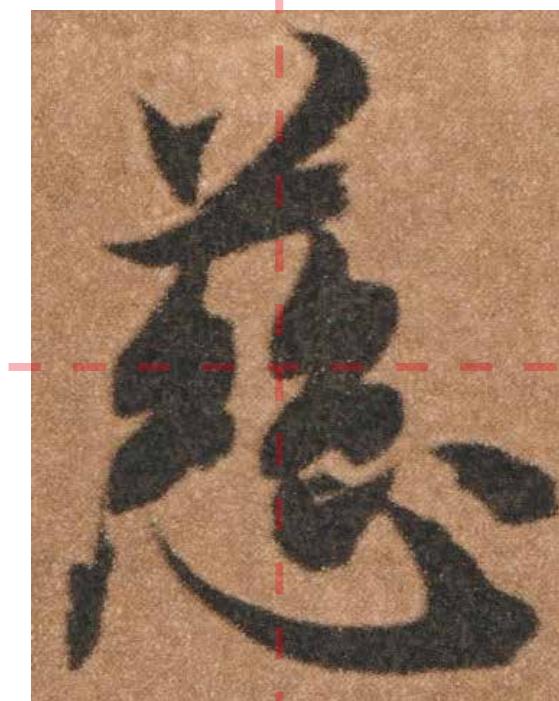
慈

いん
そく

隱

※隱と同字

惻



真

支

造次にも離れず。
佐
次
に
も
離
れ
ず。
弗

造

次

に
も

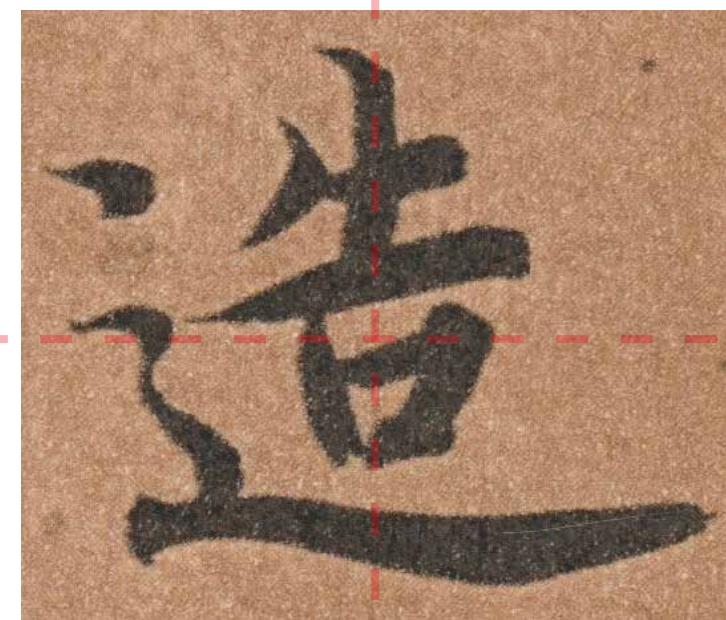
離

れ
ず。

弗

ぞう
じ

はな



支

節度、道義を守り、心正しくしてむさぼらない
という態度は、

節
義
廉
退

せつ
ぎ

れん
たい



※節と同字

塩

しばらくも失つてはならない。

顛

てんはい

沛

にも

虧

か

けざれ。

匪



※顛と同字



支

先

持つて生まれた性が穏やかな人は安らかな心地である、

性

せい

静

しず

かなれば

情

じょう

逸

いつ

し、



庚

しかし心が利欲などの強い刺激に動搖されると、心の靈妙なはたらきをする精神も疲れるものである。

心
動
か
ば
神
疲

こころ
うご

かみ
つか

る。



真

支

侵

●

人の道を守り通すと、志はいつも満ち足りる

眞

まいと

を 守

まも

れ ば

いいろざし
み

志 滿

ち、



※志と同字



※満と同字



眞

しかし名利を目を奪われ心を煩わす人は成功しない。

物

もの

を

逐

お

えば

意

い
うつ

移

る



支